

親切だより

<http://www2.himdx.net/sinsetu-kai/>

1 月号 No. 634
2024年1月1日発行

■発行／一般社団法人 親切会 本部
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-9-6
ゆいまーるひたち4F
■編集兼発行人／井草剛仁
■印刷／株式会社日立ドキュメントソリューションズ



明けましておめでとうござい
ます
本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

題名：龍 作者：古小路 浩典（東京都）

1963年5月宮崎県生まれ。中学3年生のとき、器械体操の部活動中にあやまって頭から落下し、第4、5頸椎を損傷。リハビリを続けながら療養生活を送りますが、肩から下はマヒしたまま、手足の機能は回復しませんでした。一生涯運動機能を失って自暴自棄になり、家族にも迷惑を強いました。しかし、協会を知り自分にも未来があることを痛感、画家の道をめざします。洋画家の指導を受け、本格的に絵を描き始めました。毎日の生活が目的のあるものになり、短期間に急速の向上を遂げました。

絵を始めてから10年後、29歳の時に個展を開催しました。これをきっかけに、積極的に外に出て人と会うようになりました。同時に今後の人生を考え始め、東京での一人暮らしを決断。平坦ではない道をつまづきながら、家族と協会に支えられ歩んできました。今、自立した暮らしの中で日々の喜びや人の温かさを貴重なものと感じています。



制作中の作者（口で描く）

親切会の目標

日本人は以前から、心のあたたかい親切な国民であり、物質的には豊かではなくても住みよい国でした。いま、物は豊かになった反面、人情は薄くなり、家庭でも職場でも対立や衝突が多くなり、住みよい国とはいえなくなってしまいました。今こそこの点を大いに反省し、もとのように住みよい国にしよう、というのが私達「親切会」の目標です。

年頭にあたって



一般社団法人 親切会 会長
加子 茂

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ご家族さまお揃いで良き年を迎えられたことと存じます。

新年にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年の2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は休戦の糸口が見いだせぬまま膠着状態に陥っており、国際社会は双方への支援を巡り、各国が米中対立を軸に、G7サミット、NATO首脳会議、G20サミット等国際会議の場で、それぞれの思惑と利害をぶつけ合うといった複雑な様相を呈しました。日本もロシアのウクライナ侵攻と中国の習近平体制3期目への突入という中で、にわかに現実味を帯びてきた台湾有事への対応等、経済も含めた新たな安全保障体制構築が喫緊の課題となりました。

さらに、10月にはパレスチナの武装組織ハマスがイスラエルのコミュニティに侵入、住民数百人を殺害し数十人を人質として連れ去り、これに対しイスラエルも報復として激しい砲撃や空爆を行い、双方の死者は1万人を超え多くの子どもや民間人が犠牲になつていくという真に痛ましい事態が続いています。この紛争も日本としては和平に向けて国際社会にどのよう働きかけをしていくのかが問われています。このように、日本を取り巻く国際情勢が大きく変化した年となりました。

一方で、地球環境と自然災害の脅威という観点でも、2月にはトルコ、シリア、9月にはモロッコで大震災が発生し、特に地球温暖化ということでは、南スーダンの大規模洪水、チリのメガ干ばつ、インド・バ

ングラデシュ・タイのアジア史上最悪の熱波、ハワイマウイ島やカナダの大規模な山火事等、多くの災害が発生いたしました。日本も春夏秋と気温の高い日が続き、熊が里に下りてきて人を襲う獣害が多発したり、秋刀魚や秋鮭の記録的不漁等、地球温暖化が人々の日常の暮らしに、直接影響を及ぼすようになってまいりました。

暗い世相の中で、私たちが勇気づけられたり元気をもらったりした出来事も多々ありました。スポーツの世界では、3月に開催されたWBCの大会において、大谷翔平選手をはじめ侍ジャパンに選出された選手の活躍により、見事世界一に輝くという素晴らしい快挙が成し遂げられました。惜しくも優勝には至りませんでした。7月には女子サッカーワールドカップにおいて、なでしこジャパンが4大会連続の決勝トーナメント進出を決め、また、9月に開幕したラグビーワールドカップフランス大会においては、日本代表チームはスローガンを前回大会の「One Team」から「Our Team」に進化させ、世界の強豪相手に大いにその存

在感を發揮しました。また、将棋界では、これまでも数々の最年少記録を塗り替えてきた天才棋士藤井聡太氏がついに史上初となる「八冠制覇」の偉業を成し遂げました。

このような中であって、昨年も親切会は皆さまの善意の浄財を本当に困っている人たちに適切にお届けすることに全力を傾注してまいりました。しかしながら、2020年3月に始まった新型コロナウイルス感染症拡大は、昨年5月にはコロナウイルスの取り扱いが、いわゆる5類に移行され収束方向となりましたが、当会の活動に対し多大なる影響を及ぼしました。例えば歳末募金は、コロナ禍前は一千万円を超えておりましたが、リモートワークが定着し出勤する社員が大幅に減少、これによる社員食堂の閉鎖や共用スペースの見直しにより募金箱を設置する場所がなくなり、募金額は従来の1/3程度に減りました。現在、各支部に対し寄付金の減少に対応して、寄付先、寄付内容の見直しをお願いしているところがございますが、リモートワーク等、生活様式の変化は今後とも不可逆であることを前提に当会の活動を

見直していく必要があると考えます。

そういう観点で、北海道支部で従来から実施してこられた会員・会員ご家族さまによる円山動物園、円山公園の美化活動等の地域ボランティア活動を活性化していくという取り組みは、当会の活動の今後の方向性を示す好事例と考えます。

また、関東支部で、連合東京殿のHOPPE(子ども、若者支援プラットフォーム)と連携して、法人会員の災害備蓄品で期限の近くなったものを、子ども食堂や施設に提供するとの取り組みは、昨年末に連合東京殿からさらなる拡大の要請をいただき、本年にはさらに充実した形で連合東京殿と契約を結ぶべく取り組んでいくところがございます。この取り組みも今後の方向性を示す好事例と考えます。

募金額、寄付金額の減少以外にも当会には、会員企業、会員の減少や支部活動を中心的に担ってこられたメンバーの後継者不足等の問題が内在しております。現在、「親切心の高揚と福祉活動」との最適な理念の下、60

余年にわたり営々と続けられてきた当会の活動や体制を、当会を取り巻く環境の変化に対応し、その中で当会をさらに発展させていくためには、どのように見直しをしていけばよいのかが問われております。このような状況を踏まえ、昨年の総会后、「総務・本部の運営体制の見直し(案)」を各支部にご提示し、各支部のご意見を伺わせていただきました。本年は各支部からいただいた貴重なご意見を踏まえながら、新しい運営体制の実現に向け丁寧に議論を進めてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、親切会が皆さまのご厚情とご支援、ご協力によってますます発展するともに、皆さまならびにご家族さまのご健勝とご多幸を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

「東北支部の活動と抱負」 Ⅱ 未来を担う子どもたちへⅡ



東北支部 支部長
稲田 久生

当支部の設立は1985年、以来39年を数えあと1年余で40年の節目を迎えようとしています。約40年の歩みの中で、特筆すべき出来事の一つ目は、2011年の東日本大震災です。あまりにも大規模な被災のため、親切会の及ばぬ被災規模であったと思いますが、やっとの思いで参加できたのは、被災地への炊き出しでした。二つ目には、2016年の岩手県岩泉町の台風10号豪雨災害(一晩に600ミリの豪雨)で21名の方々が犠牲になられたことです。この時は親切会の全国各支部から多大な義援金を頂戴し合わせて100万円を岩泉町へお届けすることができました。各支部の皆さまには心からの御礼を申し上げます。

さて、平常時の当支部の活動の柱は、東北6県の社会福祉施設への寄付寄贈活動です。毎年1県ずつ6年の周期で順次展開する形態を取っております。従来は、福祉施設の中でも障がい者支援施設を主体に寄贈を行ってきましたが、東日本大震災以降は、津波被災によるひとり親家庭に加え両親の犠牲による孤児が増え、その半数以上の子どもたちが貧困状態と云われております。このような背景から次第に寄贈先を見直した母子支援施設への寄贈も徐々に増えてきました。このようにして、39年間の積み重ねによる寄贈額は、あしなが育英会や日本盲導犬協会への寄付も加え、総計8千万円に届かんとしており、これは会員の皆さんの小さな親切の輪を次々と積み重ねてきたからこそこの結果だと思っております。

以上の活動原資となるのは、何と云っても会員の会費になります。それだけでは賄いきれず、毎年年末には歳末募金を法人会員ならびに各法人会社やOB会の皆さまにもお願いさせていただいております。

僅かな親切が次第に積み重なっていくもう一つの事例は、「使用済み切手の収集と寄贈」です。おおよそ一年間に30枚キログラム、枚数にすると約18万枚、金額換算で約

60,000円(1,800円/1キログラム)5,500枚として)程度がJOCSS(海外医療協力会)への寄贈につながっています。収集後の切手切り揃え作業は、月一回の日立仙台OB会の皆さま(親切会個人会員でもあります)に全面的にお世話になっており、厚く御礼を申し上げます。一人の郵便発送者からスタートして郵便配達員を介して受取人に届き収集する人、切り揃える人を経て、多くの人を介してJOCSSに届けられる。そして海外の飢えと貧困に苦しんでいる子どもたちへ医療品として届けられる。これも親切会の小さな積み重ねの良い事例でしょう。

また、当支部にとって長年の課題でありました社会貢献型自動販売機の設置が実現、まずは1台のスタートになります。ご協力いただいた中部支部には大変お世話になりました。次にご支援いただいた中部支部には大変お世話になりました。次に善行者表彰活動については、毎年1件以上の表彰を目標に掲げておりますが、ここ数年は2年に1件程度の表彰となっており、しかし今後はコロナの鎮静化に伴い地域の諸活動が徐々に活性化していくと思われ、まわりの人たちがどのようなボランティア活動をしておられるかの情報も増えていくものと思います。

こうした親切会活動の源泉、エネルギーの源は、何と云っても会員皆さまの維持増加です。そのことが、会員の皆さまによって支えられている。との感慨がひしひしと湧きあがってきますし、何とも有り難いことかと心から感謝の気持ちでいっぱいです。そこで、これからの会員の維持拡大に当たっての抱負を思いつくまま述べさせていただきます。

「法人会員、個人会員の維持拡大に向けて」
当支部も他支部と同様、グループ再編の影響とコロナ禍による在宅勤務、高齢化等の影響により、法人会員および個人会員の減少、募金の減少が進んでおります。

- 親切だよりにだけ頼らず定期的訪問による支部活動の報告に際し、温かい血の通う会話を重ねて法人会員の継続と個人会員の勧誘をお願いしていきたい。
- 支部所在地(宮城県仙台市)以外の他5県への拠点展開
- 法人会員の他県拠点への展開を行い、拠点の個人会員に窓口の世話役をお願いし会員増に向けた地道な活動をお願いしていきたい。

以上、甚だつたない抱負を述べさせていただきましたが、引き続き、未来を担う子どもたちに向けて、親切の輪をつなぐ地道な活動にご支援、協力を賜りますようお願い申し上げます。

『一粒のドングリから 自立への挑戦』

： 関東支部の支援活動

2023年11月29日(水) 平塚にある社会福祉法人進和学園が取り組む『いのちの森づくり友の会』を関東支部の鈴木支部長、平沢幹事、秋山幹事で訪問しました。

進和学園では、障がい者の方々やどんぐりから苗を育て、それを苗木として植栽活動を行っています。進和学園65年の歴史の中で、この『いのちの森づくり』の活動は2006年からスタートしており、親切会はこの活動をサポートさせていただき今年で10年目となりました。

今日、『いのちの森づくり』の活動は神奈川県のみならず、東京都、静岡県、宮城県など広がりをみせており、各地での植樹祭、森(杜)づくり、水源の森再生などに参加し、豊かな環境作りに大きく貢献しています。

進和学園は、『本人中心』『一人には一人のひかり』で活動を行っており、『いのちの森づくり』の活動は学園がめざす『共に生きる社会』そのものとして捉えています。

親切会 関東支部 としても 会員の会費および皆さまからの寄付をもとにこれからの支援活動を行います。



中央が鈴木関東支部長、その右の中腰が秋山幹事、その右が平沢幹事

寄付先からの御礼状の紹介です。

一般社団法人 親切会 九州支部
業務執行理事 支部長 山口新太郎 様

拝啓

この度は、柳井電機工業株式会社様とのご縁により、冷蔵庫を寄贈して頂き誠にありがとうございました。長年使用していた冷蔵庫が不調となっていました。新調して頂きましたおかげで職員の生活・労働環境を改善することができました。今後も永く大切に使用させていただきます。

貴会の益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御縁を賜りますようお願い申し上げます。

略儀ながら書中を持ちまして御礼申し上げます。

謹白



2023年11月吉日
社会福祉法人 朝倉恵愛会
特別養護老人ホーム 宝珠の郷
施設長 尾花 拓也

トピックス TOPICS

会の寄付事業として有効に活用させていただきます。
※このバザーの開催に合わせ今後の支部活動時に着用する幹事・事務局用のビブスを作製し親切会をアピールしました。

10月21日(土)、札幌市スポーツ交流施設「つどいむ」で4年ぶりに開催された「なんの木フェスタ2023」の会場にて、親切会北海道支部主催のチャリティーバザーを実施いたしました。会員および賛同者各位から沢山のバザー品をご提供いただき、売り上げにもご協力いただきました。

また会場で同時開催されておりましたチャリティーフードでの売上金も一部ご寄付いただき、売上金総額は53,887円となりました。



親切会幹事事務局一同



親切会チャリティーバザー会場

『東京都功労者表彰を受賞』

2023年10月2日(月) 東京都庁第一本庁舎大会議場において行われた東京都功労者表彰式において小池百合子都知事から鈴木學親切会関東支部長が功労者表彰を受賞しました。東京都では都民の生活と文化の向上に特に功労のあった者を表彰しており、長年寄付を継続している東京善意銀行さまからの推薦をいただいたことで、2023年度の東京都全功労者数294の内、団体功労者数19の一つに関東支部の寄付活動の功績が表彰されたもので、小池都知事から表彰状と記念品を受賞しました。



受賞された
鈴木関東支部長

広がる、親切の輪

「ご寄付くださった方のご芳名」

- 金 一〇〇,〇〇〇円 富山市 高田紀代子様
- 金 九五,五四二円 高松市 高松春光懇話会様
- 金 四一,一九九円 札幌市 第286回 日立サップoportビル会様
- 金 二四,四二二円 名古屋市 自販機寄付金
- 金 一八,八一九円 名古屋市 自販機寄付金

- 金 一〇,〇〇〇円 福岡市 日立シーサイド会様
- 金 一〇,〇〇〇円 宮城県 日立青葉会
- 金 八,〇〇〇円 福岡市 ゴルフコンベンチャーチャリティー募金様
- 金 八,〇〇〇円 福岡市 北村義人様
- 金 八,〇〇〇円 福岡市 樋田 勝様
- 金 六,〇〇〇円 福岡市 樫田義富様
- 金 五,三七〇円 福岡市 五,三七〇円
- 金 五,二八八円 東京都 日立海外研修団様
- 金 五,〇〇〇円 仙台市 匿名
- 金 四,八〇〇円 東京都 匿名
- 金 四,〇〇〇円 東京都 匿名
- 金 三,〇〇〇円 福岡市 山口新太郎様
- 金 三,〇〇〇円 仙台市 親切会東北支部 運営委員会様
- 金 二,二三〇円 東京都 匿名
- 金 二,〇〇〇円 大阪市 日立社友会
- 金 二,〇〇〇円 大阪市 関西支部ゴルフ部様
- 金 二,〇〇〇円 名古屋市 高島日出男様
- 金 一,〇〇〇円 福岡市 日立社友クラブ
- 金 九,四五〇円 東京都 45八重洲会様
- 金 三〇〇円 東京都 匿名

親切会本部・関東支部 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-9-6 ゆいまーるひたち4F 電話070-3603-2172 振替口座00100-1-77291 三菱UFJ銀行神田支店 普通口座番号0530726	北海道支部 〒060-0002 札幌市中央区北2条西4丁目1番地 札幌三井JPビルディング 株日立製作所北海道支社内 電話011-221-3444 中央三井信託銀行札幌支店 普通口座番号8721350	東北支部 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 (JRE東二番丁スクエア) 株日立製作所東北支社内 電話022-223-0121 振替口座02270-4-144523 七十七銀行本店営業部 普通口座番号7838603	北陸支部 〒930-0858 富山市牛島町18-7 (アーバンプレイス) 株日立製作所北陸支社内 電話076-433-8511 振替口座00710-9-877 北陸銀行電気ビル支店 普通口座番号6029238	中部支部 〒460-8435 名古屋市中区栄3-17-12 (大津通電気ビル) 株日立製作所中部支社内 電話052-259-1133 振替口座00800-8-137771 三菱UFJ銀行栄町支店 普通口座番号0265752	関西支部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-2-1 新ダイビル9階 電話・FAX06-6341-6770 電話01140-2-41408 三菱UFJ銀行大阪営業部 普通口座番号3617606	中国支部 〒730-0036 広島市中区袋町5-25 (広島袋町ビル) 株日立製作所中国支社内 電話082-541-4111 山口銀行広島支店 普通口座番号6267593	四国支部 〒760-0027 高松市紺屋町9-6 (高松大同生命ビル4階) 株日立製作所四国支社内 電話087-802-4340 百十四銀行田町支店 普通口座番号0314049	九州支部 〒814-0001 福岡市早良区百道浜2-1-1 (日立九州ビル4階) 株日立製作所九州支社内 電話092-844-7501 振替口座01700-3-9484 西本シティ銀行シーサイド655支店 普通口座番号3024435
---	--	--	---	--	--	---	--	---